

令和3年度
千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

宮ノ後遺跡第5次・中ノ台古墳群調査

令和4年3月
袖ヶ浦市教育委員会

令和3年度

千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

みやのうしろ 宮ノ後遺跡第5次・なかのだい 中ノ台古墳群調査

令和4年3月

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

房総半島の東京湾側中央部に位置する袖ヶ浦市は、内陸部に流れる小櫃川によって形成された自然環境を活かした農業地域を形成する一方で、海岸部は京葉工業地帯の一翼を担う工業地域として大きく発展を遂げてきました。

本市では、令和2年度に第三期袖ヶ浦市教育ビジョンを策定し、基本目標に『未来を創る 心豊かで いきいきとした 人づくり』を掲げ、【子ども】【生涯学習】【スポーツ】【文化財・文化芸術】の領域で基本目標を実現するための様々な取り組みを進めております。

近年、袖ヶ浦駅の海側地区において宅地開発が進み、首都圏近郊からの移住者の増加など、さらなる発展が見込まれております。

その一方で、この地には500を超える古代の人々の生活痕跡が地中に数多く存在しており、遺跡が所在する箇所での開発行為の件数も増加の一途をたどっております。

そこで本市では、国及び県の補助を受けて、各種の開発事業に先立ち、市内に存在する遺跡の発掘調査を実施し、開発行為と埋蔵文化財保護との調和を図っております。

また、開発に伴い破壊されてしまう遺跡については、発掘調査で得られた成果を発掘調査報告書として記録保存し、これを広く公開することで遺跡の周知を図っております。

本書を多くの方々に手に取っていただき、埋蔵文化財を認識し、郷土の歴史への理解を深めるための資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまで御指導をいただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課をはじめ、土地所有者及び事業者の皆様からの多大なる御理解と御協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

令和4年3月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫

例 言

1. 本書は、令和3年度に発掘調査を実施した宮ノ後遺跡第5次・中ノ台古墳群調査を収録した令和3年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導を受け、発掘作業及び整理作業、報告書刊行までの業務を袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 発掘作業は令和3年7月15日～同年8月26日、整理作業を令和3年10月1日～令和4年2月28日まで実施した。
4. 調査遺跡は、袖ヶ浦市神納字宮ノ後3362番地1他に所在する。
5. 発掘作業及び整理作業は助川 諒・能城 秀喜が行った。
6. 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図	国土地理院発行	1/25,000	地形図	「姉崎」「奈良輪」「木更津」
第2図	国土地理院発行	1/25,000	地形図	「奈良輪」
第3図	袖ヶ浦市発行	1/2,500	地形図	「No.17」
7. 本書で使用したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘時のものを使用した。
8. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。
9. 遺跡のコードは、宮ノ後遺跡（SG 077）である。本遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示した。（第5次調査 → （5））
10. 遺構平面図および断面図内の「K」は攪乱を意味する。
11. 縄文土器実測図中の断面に付したドット「■」は胎土に繊維を含むことを表す。
12. 発掘作業から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々から御指導・御協力を頂いた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位の御協力をいただいた。記して謝意を表したい。

目 次

序文	
例言	
序章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	
2. 調査経過	
3. 調査組織	
第2章 宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群	3
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	

挿 図 目 次

第1図	調査遺跡位置図
第2図	宮ノ後遺跡・中ノ台古墳群 周辺遺跡位置図
第3図	宮ノ後遺跡・中ノ台古墳群 遺跡全体図
第4図	宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群 遺構確認状況図、土層断面図
第5図	宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群 出土遺物実測図

表 目 次

第1表	宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群 出土遺物内訳表
第2表	宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群 出土遺物観察表

図 版 目 次

図版1	宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群①
図版2	宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群②

序章 調査概要

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市教育委員会では、市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地内において計画される中小企業等の開発行為に際して、遺跡の実態を把握するために国及び県の補助を受けて確認調査を実施している。

令和3年度は宮ノ後遺跡・中ノ台古墳群における宅地造成に伴い、確認調査を実施した。

2. 調査経過

宮ノ後遺跡(5)・中ノ台古墳群

7月15日：環境整備、16日：環境整備、19日：環境整備、写真撮影、20日：環境整備、仮設トイレ設置、基準点測量、21日：環境整備、トレンチ設定、基準点測量、26日：現場休止、27日：現場休止、28日：重機によるトレンチ掘削、29日：重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、30日：重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、写真撮影、8月2日：現場休止、3日：トレンチ精査、写真撮影、4日：トレンチ精査、断面図作成、写真撮影、5日：トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、6日：トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、10日：現場休止、11日：現場休止、12日：現場休止、13日：現場休止、16日：現場休止、17日：現場休止、18日：重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、断面図作成、写真撮影、19日：重機による埋戻し、平面図作成、写真撮影、20日：重機による埋戻し、平面図作成、写真撮影、23日：重機による埋戻し、24日：環境整備、25日：環境整備、機材撤収、26日：仮設トイレ撤去、写真撮影、現場撤収

3. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

教育長	御園 朋夫	教育部長	根本 博之
教育部次長	小阪 潤一郎	生涯学習課長	高浦 正充
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主幹	能城 秀喜
主査	柳井 健	学芸員	鎌田 望里
学芸員	助川 諒(担当者)		



第1図 調査遺跡位置図 (1 : 25,000)

第2章 宮ノ後遺跡（5）・中ノ台古墳群

1. 周辺の遺跡と環境（第1・2図）

宮ノ後遺跡は、北側は浸食谷部に面し、南側は沖積平野を望む、小櫃川下流域右岸、北東岸より2.5kmの標高約31mの袖ヶ浦台地に位置する。

宮ノ後遺跡は、これまでに4次にわたる調査が行われており、今回の調査区の隣接地にあたる第1次調査区では遺構は確認されずに、弥生から古墳時代の遺物が検出されるにとどまっている。第2次調査区は、遺跡範囲の南東端に位置し、調査区からは近世の遺構のほか、古墳時代の遺物が検出されている。

第3次・4次調査区は、遺跡中央部のやや東側に位置し、周辺遺跡と比較検討できる縄文時代炉穴や弥生時代の方形周溝墓、古墳時代後期古墳、近世溝状遺構などが検出されている。

また、中ノ台古墳群は宮ノ後遺跡の北西側に位置し、5基の古墳が所在すると過去の分布調査より推定されている。そのなかでも1・2号墳は分布調査から円墳と推定されているが、2号墳については宅地造成で消滅しているため、現在では所在場所も不明である。そのほかの古墳については調査が実施されていないため詳細が不明である。

宮ノ後遺跡と中ノ台古墳群の周辺は、谷ノ台遺跡、金井崎遺跡、水神下遺跡など弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落遺跡、率土神社南古墳や、お袖塚古墳など市指定文化財の古墳が分布しており、近世に至っては中辻台貝塚や堀込塚などの遺跡が分布している特徴から長期間にわたって人々が生活を営んでいたことが周辺遺跡からも伺える。

2. 調査と遺跡の概要（第3～5図、第1・2表、図版1・2）

調査方法

宅地造成に伴い、4,292.48㎡を対象として確認調査を実施した。

調査区には2m×10mを基本としたトレンチを設定し、重機による表土掘削後に、人力による遺構確認作業・図化作業を行った。

調査の概要

本調査区は宮ノ後遺跡の南西中央部に位置する。調査区の南側は近年まで畑地として利用されており、北側は荒蕪地となっていた。

調査区南側は近年まで耕作が行われていたが遺構の密度が高く、遺構の遺存度も良好であった。確認面までは0.5～0.7mを測る。調査区北側は所々に攪乱の影響を受けており、確認面までは0.6～0.8mを測る。

遺構

検出された遺構は、13T、16T、17T、19Tで竪穴住居が各1軒、20Tより竪穴住居2軒が検出された。出土遺物より弥生時代後期から古墳時代前期頃と推定される住居である。

竪穴住居の形状は隅丸方形と推定される。そのほか、17Tより弥生時代と推定される土坑1基、7Tより溝状遺構1条を検出した。出土遺物が検出されなかったため明確な時期は不明だが、形状より近世以後と推定される。

遺物

調査区からは、4T・9T・16T・19T・20Tより、縄文土器1点・13.84g、弥生土器104点・1,823.64g、古墳時代土師器2点・10.25gが出土した。遺構に伴う遺物としては、19Tの遺構確認面から弥生時代後期と推定される台付甕を検出している。

全体の総数から見て弥生時代後期の土器が多く出土している特徴がある。また、16 Tより縄文時代早期と推定される縄文土器の破片が1点検出されている。

3. まとめ

今回の調査を含めて5次の調査が実施されているが、遺跡範囲の北東部では方形周溝墓や土坑墓などが検出されており、過去の調査より墓域と推定されてきた。

遺跡の南西部ではこれまで近世の遺構検出に留まり、弥生時代から古墳時代の遺物は検出していたが、遺構の検出は無く、当該時期の遺跡の詳細が把握されていなかった。

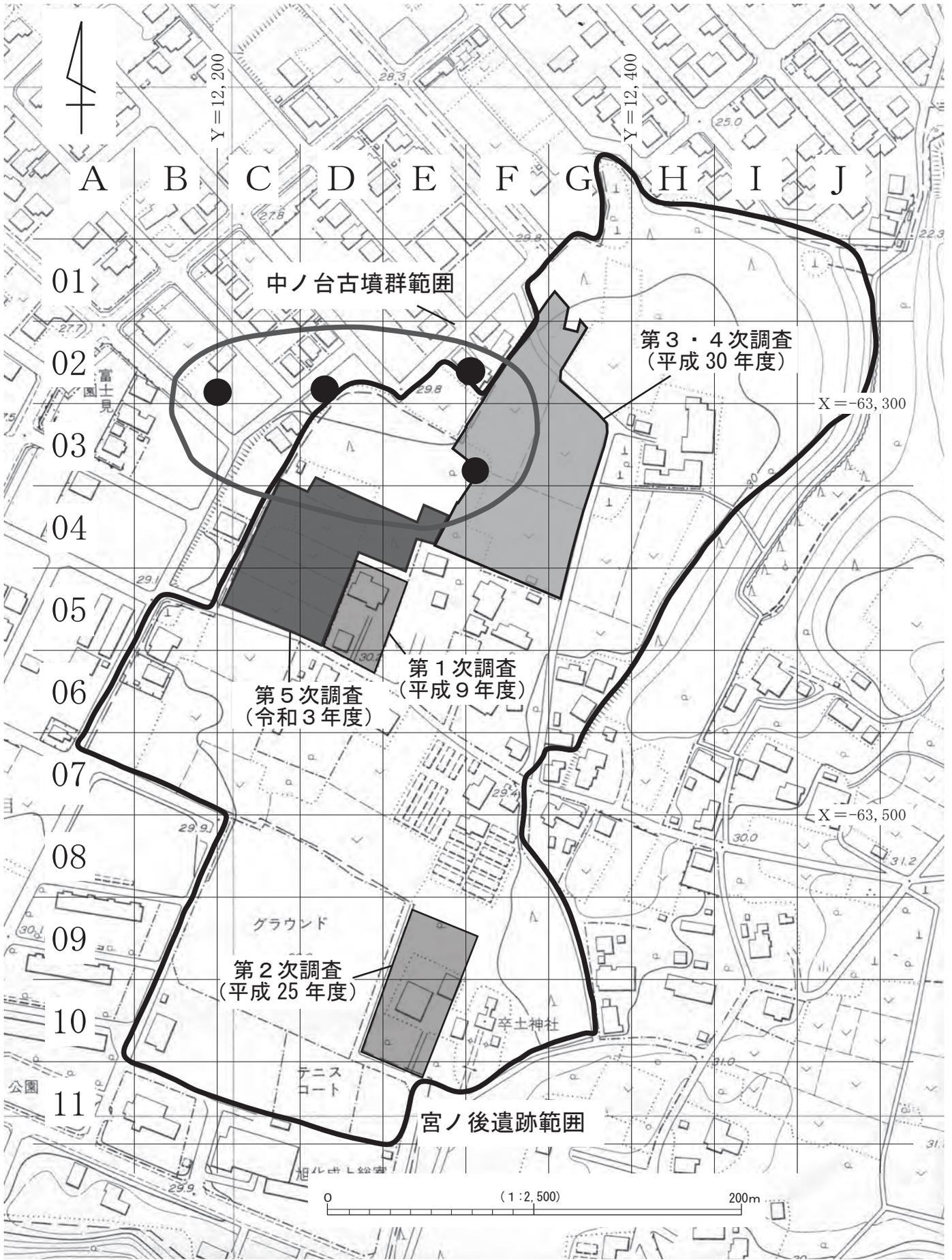
しかし、今回の調査で弥生時代後期頃から古墳時代前期頃と推定される住居を遺跡範囲の南西中央部にて確認したことから、墓域と集落域が遺跡内で区分されていた可能性が推定することができた。今後は周辺の同時期の遺跡と分析を行うことによって、さらに遺跡の性格解明が望まれる。

参考文献

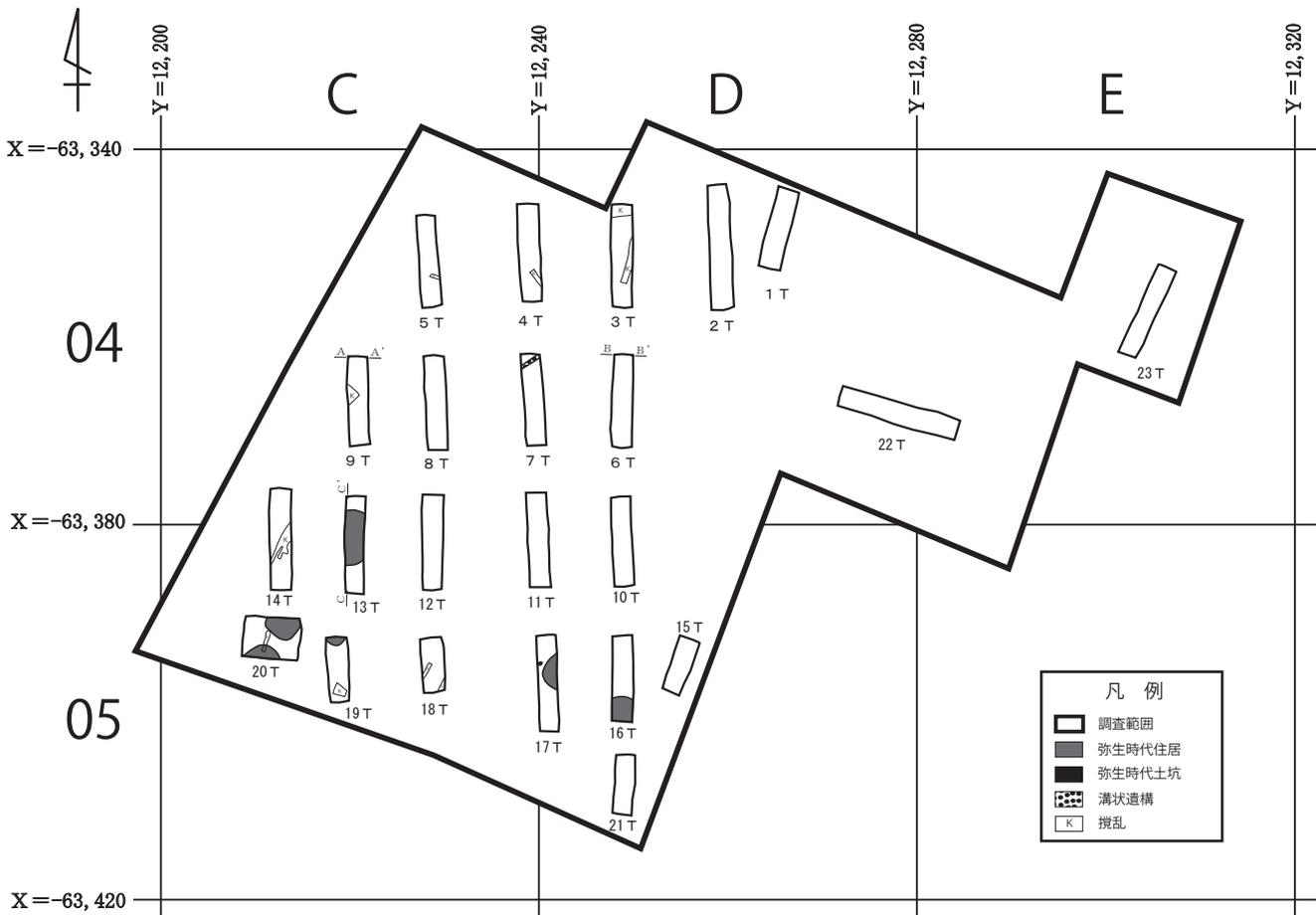
大河原務・鎌田望里 2019『平成30年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』

簗島正広 2019『千葉県袖ヶ浦市宮ノ後遺跡（4）—神納地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—』

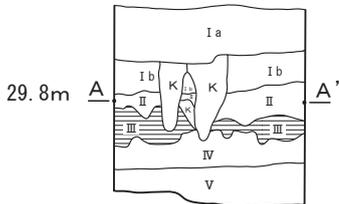




第3図 宮ノ後遺跡・中ノ台古墳群 遺跡全体図 (1:2,500)

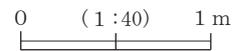
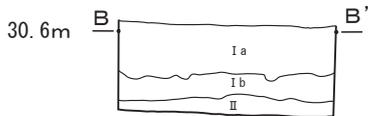


基本層序 (9 T 北壁)

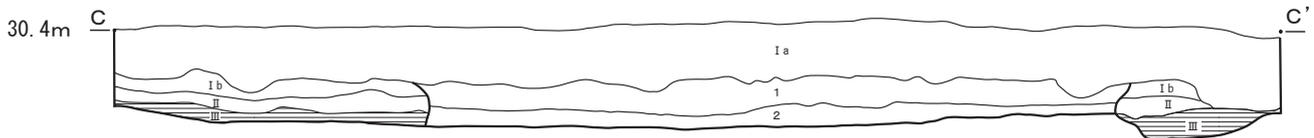


- I a. 灰褐色土 (表土層 しまりあり 粘性ややあり)
- I b. 黒褐色土 (灰褐色粒子を少量含む しまりあり 粘性あり)
- II. 暗褐色土 (ソフトローム漸移層 しまりあり 粘性あり)
- III. 褐色土 (ソフトローム層 しまりあり 粘性やや強い)
- IV. 褐色土 (ハードロームIV層 しまり非常に強い 粘性やや強い)
- V. 褐色土 (ハードロームV層 しまり非常に強い 粘性強い 赤色スコリアを微量含む)

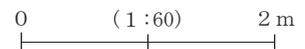
基本層序 (6 T 北壁)



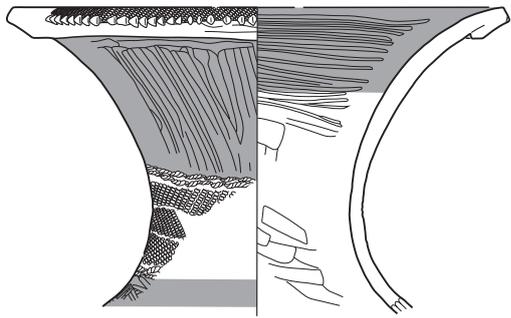
13 T セクション (西壁)



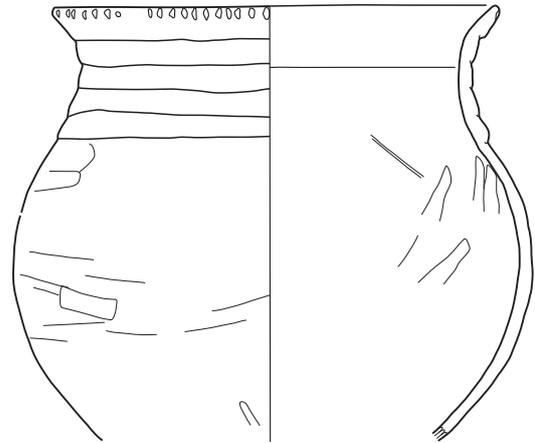
- I a. 灰褐色土 (表土層 しまりあり 粘性ややあり)
- I b. 暗褐色土 (灰褐色粒子を少量含む しまりあり 粘性ややあり)
- II. 暗褐色土 (ソフトローム漸移層 黒色粒子を少量含む しまりあり 粘性ややあり)
- III. 褐色土 (ソフトローム主体 しまりあり 粘性弱い)
- 1. 黒褐色土 (竪穴住居覆土 赤色粒子を微量含む、ローム粒子を少量含む しまりあり 粘性弱い)
- 2. 暗褐色土 (竪穴住居覆土 ロームブロックを斑状に含む 赤色粒子微量に含む しまりあり 粘性弱い)



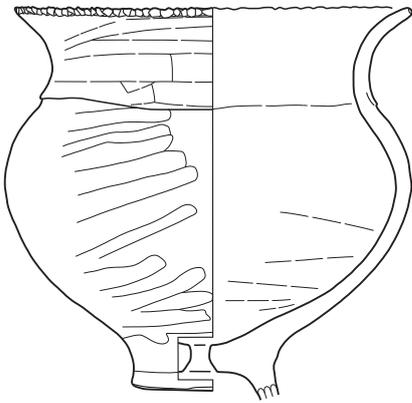
第4図 宮ノ後遺跡(5)・中ノ台古墳群 遺構確認状況図、土層断面図



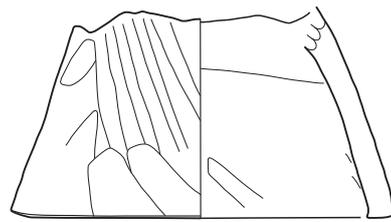
1 (16T)



2 (16T)

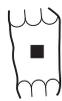
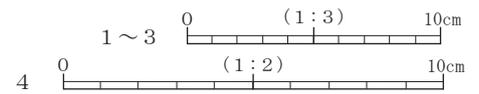


3 (19T)



4 (16T)

凡例
赤彩



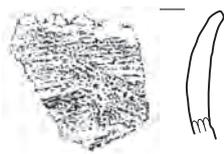
5 (16T)



6 (16T)



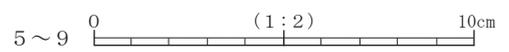
7 (16T)



8 (16T)



9 (16T)



第5図 宮ノ後遺跡(5)・中ノ台古墳群 出土遺物実測図

第1表 宮ノ後遺跡(5)・中ノ台古墳群 出土遺物内訳表

トレンチ 番号	総量(g)	弥生土器		古墳時代土師器		縄文土器	
		重量(g)	比率	点数	重量(g)	点数	重量(g)
4T	10.25	0	0.0%	2	10.25	0	0
9T	3.37	3.37	100.0%	0	0	0	0
16T	1,046.28	1,032.44	98.7%	0	0	1	13.84
19T	779.78	779.78	100.0%	0	0	0	0
20T	8.05	8.05	100.0%	0	0	0	0
合計	1,847.73	1,823.64	98.7%	2	10.25	1	13.84

第2表 宮ノ後遺跡(5)・中ノ台古墳群 出土遺物観察表

計測値内の()は、口径・底径の復元値
器高は残存値、断片は最大厚

遺物番号	トレンチ 番号	種別	器種	部位 遺存率	寸法(cm)			重量(g)	色調	調整技法等	備考
					口径	器高	底径				
1	16T	弥生土器	壺	口縁部25%	19.5	(12.4)	-	191.31	明赤褐色	外面:口唇部単節LR、口縁部に工具によるキザミ、頸部 横方向ヘラナデ後に縦方向ミガキ、頸部下端は無節R結 節文、単節羽状縄文、胴部ヘラミガキ、赤彩 内面:横方向にヘラミガキ、ナデ、赤彩	
2	16T	弥生土器	甕	口縁部80% 胴部60% 底部欠損	17.7	(17.6)	-	580.39	明黄褐色	外面:口唇部工具によるキザミ、頸部多段の輪積み 痕跡、胴部ヘラケズリ、ヘラナデ 内面:ヘラケズリ	
3	19T	弥生土器	台付甕	口縁部64% 胴部100% 脚部欠損	15.7	(15.5)	-	640.40	にぶい赤褐色	外面:口唇部工具によるキザミ、 頸部に1段の輪積み痕跡、胴部ヘラケズリ 内面:内面ナデ、焼成後に穿孔	倒立して出土
4	16T	弥生土器	台付甕	胴部欠損 脚部85%	-	(5.6)	(10.1)	134.08	赤褐色	外面:胴部にヘラミガキ、ヘラケズリ 内面:胴部下端にヘラケズリ、整形痕跡	
5	16T	縄文土器	深鉢	-	断片最大厚 (12mm)			13.84	明黄褐色	裏表面に条痕文、胎土に繊維含む	縄文早期
6	16T	弥生土器	壺	胴部	(6mm)			4.39	黄褐色	外面:羽状縄文、下端にS字結節	
7	16T	弥生土器	壺	胴部	(7mm)			5.14	暗赤褐色	外面:胴部にS字結節R、単節RL	
8	16T	弥生土器	甕	口縁部	(5mm)			8.78	黒褐色	外面:口唇部工具によるキザミ、 胴部多方向にヘラケズリ	
9	16T	弥生土器	壺	胴部上半	(7mm)			23.62	灰褐色	外面:上端単節RL、羽状縄文、S字結節LR、 ヘラミガキ、赤彩	

写真図版



1. 調査前全景 (南→)



2. 13 T (南→)



3. 9 Tセクション (南→)



4. 16 T (南→)



5. 17 T (南→)



6. 19 T (南→)



7. 20 T (西→)



8. 22 T (西→)



9. 23 T (南西→)



10. 作業風景 (南→)



11. 出土遺物 (第5図 - 1)



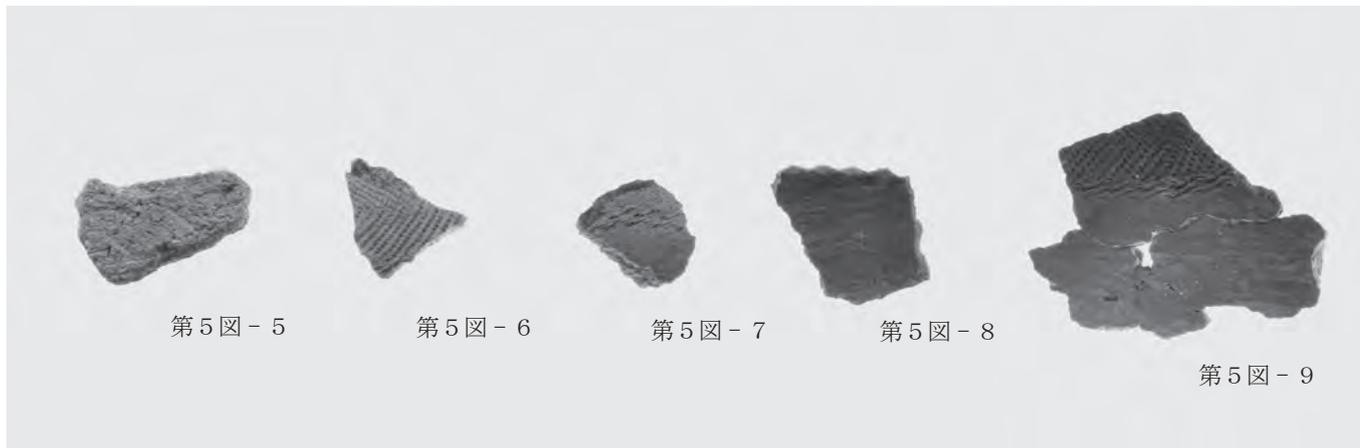
12. 出土遺物 (第5図 - 2)



13. 出土遺物 (第5図 - 3)



14. 出土遺物 (第5図 - 4)



第5図 - 5

第5図 - 6

第5図 - 7

第5図 - 8

第5図 - 9

15. 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	れいわさんねんど そでがうらしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	令和3年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書							
編著者名	助川 諒							
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会							
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1				TEL 0438-62-2111			
発行年月日	2022年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みやのうしろ 宮ノ後遺跡 第5次・中ノ台 古墳群調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 神納字宮ノ後 3362 番地1他	12229	SG077	35° 25' 43"	139° 58' 5"	20210715 ～ 20210826	436/ 4,292.48	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
宮ノ後遺跡・中ノ台古墳群	包蔵地 古墳	縄文時代 弥生時代 古墳時代	弥生時代竪穴住居6軒・土坑1基・近世溝状遺構1条		縄文土器・弥生土器・古墳時代土師器	出土遺物は弥生土器が主体である		
要約	調査区南西部から弥生時代後期頃の竪穴住居が集中して検出された。							

2022年3月19日 印刷

2022年3月25日 発行

令和3年度
千葉県
袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

宮ノ後遺跡第5次・中ノ台古墳群調査

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1
電話 0438-62-2111印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
千葉県木更津市潮見4丁目14番4号
電話 0438-36-5361

